

社会変化に応えるパートナーシップとは

1996年の設立以降、社会環境の変化にともない役割を進化させてきたGEOCだが、「持続可能な開発目標(SDGs)」の中でも「目標17」に掲げられた「Partnerships for the Goals(持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する)」の実施に向けた貢献が望まれているところだ。

それをふまえ、GEOCでは設立20周年の特別企画として2015年12月から2016年12月まで約1年にわたり、座談会リレートーク(全12回)を実施した。毎回違う分野の第一線で活躍する有識者を招き、日本におけるパートナーシップを振り返るとともに、直面する課題や今後の展望、GEOCへの期待について、聴講者も含めて本音で語り合う場が実現した。まずは、登壇者が語る生の声からその臨場感を味わってみたい。



第6回の様子

第1回 市民社会とパートナーシップ

日本の市民活動は、将来の財産となるような成功体験がないのではないのでしょうか。(黒田かをり氏) / 同じような意見の人たちによる閉じたパートナーシップではなく、異なる価値観を持つ人たちが同じ方向を見つめるパートナーシップが必要。それが設計された場づくりが人を育てる。(広石拓司氏) / 今後、社会保障費は増える一方、税収は減っていくなかで、地域の課題をみんなで解決をしていくためには、市民と行政と一緒に、困難を抱えた人に手を差し伸べていくことが大切。その時にこれからの最大の地域資源は、「協働力」であることに気づくはず。(船木成記氏)

第2回 持続可能な生産と消費とパートナーシップ

企業は従来の経済的成功体験にしがみついているが、持続可能な社会は、それだけでは実現できないんです。多様なセクターと連携したイノベーションを期待したいですね。(茵田綾子氏) / GEOCには環境課題以外にも、消費者や他のステークホルダーに関する課題という視点からも見て欲しいですね。食品ロスの問題と環境問題をリンクさせるなど、持続可能な消費に関してマルチステークホルダーで解決すべき課題はまだまだあるはず。(古谷由紀子氏) / 単色ではなく、たくさんの色が生きる世界のために、GEOCはもっと柔軟に。一緒に悩み、それを実況中継し、飛び入り参加を受け入れる機能であってほしい。(渡部厚志氏)

第3回 生物多様性保全とパートナーシップ

津波は我々から多くのものを奪ったが、同時に絶滅危惧種を再生させた。でも、NGOは現場の持つ自然摂理の奥深さを十分に伝えられなかった。GEOCには縦割りの打破と、リアルな現場での協働をつきつめてほしいです。(横山隆一氏) / 自然に触れるという原体験を持つ人が少なくなっていることが最大の危機であり、たくさんの目で見て、調査するプロセスが重要。素晴らしい取組をしているところは、必ず次の世代を育てています。(小堀洋美氏) / パートナーシップ疲れしないためには、仲間意識の醸成と達成感あるプログラムに尽きる。それがやりつづける意欲につながる。(篠健司氏)

ご参加いただいた方々 (敬称略)



黒田かをり



広石拓司



船木成記



茵田綾子



松原裕樹



北村友人



小久保智史



常川真由美



及川久仁江



中口毅博



久保田学



小林 光



蟹江憲史



阿部 治



今田克司



長沢恵美子



永井三岐子



大崎美佳

第4回 レジリエンス社会とパートナーシップ

広島の大豪雨災害では、地域にしがらみのない大学生が活躍したんです。災害支援から人材・ノウハウが生まれている。現代の知恵を次世代につなぐことも大切です。(松原裕樹氏) / 大きな力がかかったときにポキッと折れない竹のような回復力・再起力(レジリエンス)を持った社会が必要。単に元の形に戻るだけじゃなく、変容(トランスフォーム)が必要な場合もある。また、パートナーシップはレジリエンスを補完する点にも注目すべき。(枝廣淳子氏) / GEOCには、情報を現場に届けるような組織になってほしいですね。単発ではなく長い目で地域の団体を育ててほしい。(藤沢烈氏)

第6回 政治参加とパートナーシップ

GEOCは地域と政策のズレを埋める行政の内側から調整を図る役割をはたしてほしい。(久保田学氏) / 環境問題は人が幸せに生きる権利などの人権問題と密接に関わっている。協働して何を実現するのか、問題のフレーミングとタイミングを重視して、イノベーションを継続することが必要。(大久保規子氏) / 意見が違う人との対話の場を積極的につくる必要がある。政策をつくっていく経過は、利害調整のかたまりだから、GEOCはあえて物議をかもし場を設定する演出家になってほしい。(池本桂子氏)

第7回 中間支援機能とパートナーシップ

社会のニーズを確かめる勇気は、「私は誰のためにやっているのか?」という自分自身への誠実な問いから生まれる。(川北秀人氏) / 当事者の行動であるNPOこそが、枠組みを超えたつながりを実現し、地域を変えていく。(石原達也氏) / 中間支援機能の価値が外からはなかなか見えにくい。それが何なのか、またどのように役に立っているのかを、GEOCが社会にわかりやすく伝えてほしいですね。(岡本一美氏)

第8回 震災とパートナーシップ

非常時だからこそ試される。EPOは何のために存在するのか。平常時にできないことは非常時にはできないですよ。(井上郡康氏) / ゆるやかなつながりをつくり、終わったらほどく、ネットワーク(結び目を作る)が非常時には必要。(萩原なつ子氏) / 非常時には、一人ひとりが持つ中間支援力が局面では問われる。元通りを求めず、柔軟に状況に対応しつつ、時間をかけて状況を改善していくことが必要。(澤克彦氏)

第11回 ユースとパートナーシップ

社会に関心があるのに、ユース世代が将来に希望を見出せないのは、日本社会の負の部分が影響している。それをどう乗り越えていくべきか。(大崎美佳氏) / 若者はどこでも求められる。けれども決断する場面には求められない。自ら決める力を育む機会を若者は求めているんです。(原田謙介氏) / 世の中が当たり前としている見えないルールからはずれたときに、決断の道が見えた。自分で選ぶということと幸せがつながっていることに気付いた。(水柿大地氏)

第12回 環境人材の育成とパートナーシップ

環境省も国連大学も、もう一度GEOCのあり様を再点検すべき時期だ。これまでと同じようなことを、同じように続けるのではダメ。世界で最も早く高齢化が進む都市における持続可能性向上政策を世界に示さない。(川北秀人氏) / 現状を悲観するだけではない、地域で具体的に課題解決していく「やっちゃん型」の若者が増えてきていることに期待している。(川嶋直氏) / 今、正論よりもまず共感できることの方へ流れて行く傾向がある。その現実を受け止めたうえで、みんなが納得感のある丁寧なコミュニケーションが合意形成へつながっているように感じる。(上條直美氏)



古谷由紀子



渡部厚志



横山隆一



小堀洋美



篠 健司



藤沢 烈



枝廣淳子



池本桂子



川北秀人



岡本一美



石原達也



井上郡康



萩原なつ子



澤 克彦



原田謙介



水柿大地



川嶋 直



上條直美

※掲載したすべての声は、リレートーク中の実際の発言をもとに、発言者に了承を得たうえで、つな環編集部で言葉を補い再構成したものも含まれます。開催概要や発言者の所属や役職については9ページの一覧表も併せてご覧ください。なお、第5回と第9回はそれぞれ拡大版、特別版として国連大学で開催しました。

[リレートーク第9回] GEOC 設立20周年記念シンポジウム

GEOCとこれからのパートナーシップ

GEOCは、これから訪れるであろう大きな社会変化に対し、自らの存在をゼロリセットで見直し、社会変化に応えるパートナーシップの形を示せ—。

20周年記念シンポジウムの登壇者からの発言をまとめると、このような言葉になるだろう。地球環境の限界に加え、新たな社会現象により

不安定化する世界にあって、これまでは存在しなかった仕掛けや政策の仕組みが求められていて、GEOCはその先頭に立ってチャレンジしていくべきであると座談会では強く求められた。またパートナーシップという言葉は何気なく使っている点については、市民社会からの視点として「パートナーシップは危うい」と

警鐘を鳴らす意見もあった。不均衡な状態を解消するために、情報公開・力量形成・資源分配など責任主体への状況を整備していくとともに、権力構造を理解・分

析したうえでのパートナーシップを展開していることが必要であるなど、社会を変えていくうえで利害関係者との摩擦に向き合う本気度を問う意見も出された。

また、これまで繰り返し指摘されてきた、尊敬し合える関係性、協働の成功体験、人を巻き込む工夫と場の設定等については、複雑化する社会状況や、異なる考え方をする人・組織を巻き込むなど、これまで以上に難易度が上がった状態の中で、パートナーシップの本質を見失わないことの重要性が指摘された。

.....

[地球環境パートナーシッププラザ
事務局次長 平田裕之]



GEOC20周年座談会リレートークを振り返って

東京都市大学大学院環境情報学研究所教授 佐藤真久

本リレートークは、日本の10年後の未来にむけて、持続可能性にかかる諸課題、マネジメント、ガバナンスの視点から、多様な関係者とともに本音で語る座談会形式の対話セッションであった。

まずは、「これまでの社会とこれからの社会」に関する議論を通して、パートナーシップを阻害・推進する社会的背景について考察が深められた。「日本における市民運動に成功体験がない」（第1回）や、「日本経済における成功体験が、企業内の多様性と社会変容を受け入れない状況をつくっている」（第2回）などの指摘のとおり、経済発展にむけて効率性を重視した戦後の日本社会における社会的通念が、異質性・多様性を尊重したパートナーシップを阻害している点が強調された。

さらに、議論を通して「パートナーシップの多義性と多様性」が見られた。とりわけ、「多義性」については、社会課題の解決にむけた「手段としてのパート

ナーシップ」は多くの登壇者からその重要性が強調されつつも、異なる主体間の関係性の構築や継続的な探求プロセスの構築にむけた「目的としてのパートナーシップ」や、多様な主体が課題解決と地域づくりに参画することを可能にする「人権としてのパートナーシップ」についてもその重要性が指摘された。

本リレートークでは、「GEOCへの期待」についても議論され、中間支援機能や全国拠点機能について、多くの意見が寄せられた。SDGs第17目標において、多様な主体（マルチステーク）によるパートナーシップの重要性が強調されているように、これからのVUCA時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）において、異質性・多様性の高い主体同士の連携・協働が期待されている。GEOC運営委員（筆者）として、本リレートークでの指摘事項を真摯に受け止め、これからの組織改善と事業運営、機能強化に努めていきたい。

GEOC 20周年記念座談会リレートーク実施一覧

回	開催日/テーマ	登壇者
第1回	2015年12月11日(金) 市民社会とパートナーシップ	・黒田かをり/一般財団法人CSOネットワーク理事・事務局長 ・広石拓司/株式会社エンパブリック代表取締役 ・船木成記/尼崎市顧問、株式会社博報堂テーマビジネス開発局政策企画部ディレクター
第2回	2016年2月24日(水) 持続可能な生産・消費とパートナーシップ	・藺田綾子/株式会社クラン代表取締役 ・古谷由紀子/サステナビリティ消費者会議代表 ・渡部厚志/財団法人地球環境戦略研究機関研究員
第3回	3月16日(水) 生物多様性保全とパートナーシップ	・横山隆一/財団法人日本自然保護協会参事 ・小堀洋美/東京都市大学特別教授・生物多様性アカデミー代表理事 ・篠健司/パタゴニア日本支社環境プログラムディレクター
第4回	3月23日(水) レジリエンス社会とパートナーシップ	・藤沢烈/一般社団法人RCF代表理事 ・枝廣淳子/東京都市大学教授、イーズ未来共創フォーラム代表 ・松原裕樹/ひろしまNPOセンター事務局次長
第5回 ※	3月31日(水) GEOC設立20周年特別企画——持続可能な開発目標(SDGs)と地域のパートナーシップ ○挨拶 ・深見正仁/環境省大臣官房審議官 ・竹本和彦/国連大学サステナビリティ高等研究所所長 ○基調講演 ・北村友人/東京大学大学院教育学研究科准教授「持続可能な開発目標(SDGs) –その策定背景と日本への期待」 ・佐藤真久/東京都市大学大学院環境情報学研究科教授「SDGs達成にむけたパートナーシップの枠割 ——座談会リレートークの論点整理と日本の経験から」 ○座談会 ・佐藤真久 ・小久保智史/小山市役所総合政策部渡良瀬遊水地ラムサール推進課主査 ・常川真由美/四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)所長 ・及川久仁江/♪米im♪My夢♪Oshu♪(マイムマイム奥州)代表 ・中口毅博/芝浦工業大学 教授/ NPO 法人環境自治体会議環境政策研究所所長 総合司会: 渡辺綱男/国連大学サステナビリティ高等研究所シニアプログラムコーディネーター	
第6回	7月15日(水) 政策参加とパートナーシップ	・久保田学/公益財団法人北海道環境財団事務局次長 ・大久保規子/大阪大学大学院法学研究科教授 ・池本桂子/特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会常務理事
第7回	9月1日(木) 中間支援機能とパートナーシップ	・川北秀人/IIHOE(人と組織と地球のための国際研究所)代表 ・岡本一美/NPO法人地域福祉サポートちた代表理事 ・石原達也/NPO法人岡山NPOセンター副代表理事
第8回	9月8日(木) 震災とパートナーシップ	・井上郡康/EPO東北統括 ・萩原なつ子/立教大学社会学部教授 ・澤克彦/EPO九州コーディネーター
第9回 ※	10月12日(水) GEOC設立20周年記念シンポジウム——GEOCとこれからのパートナーシップ ○挨拶 ・奥主喜美/環境省総合環境政策局長 ・竹本和彦/国連大学サステナビリティ高等研究所所長 ○基調講演 ・小林光/慶應義塾大学政策・メディア研究科特任教授「日本における環境パートナーシップの歩みとGEOCへの期待」 ・蟹江憲史/慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授「SDGs目標17の意義と日本への期待」 ・佐藤真久/東京都市大学大学院環境情報学研究科教授「SDGs達成に向けたパートナーシップの役割 ——座談会リレートークの論点整理と日本の経験から」 ○座談会 ・佐藤真久 ・阿部治/環境パートナーシップオフィス等運営委員長/立教大学社会学部教授 ・今田克司/一般社団法人CSOネットワーク代表理事/特定非営利活動法人日本NPOセンター常務理事 ・長沢恵美子/1%クラブコーディネーター/経団連事業サービス研修グループ長 ・永井三岐子/国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニット 総合司会: 渡辺綱男/国連大学サステナビリティ高等研究所シニアプログラムコーディネーター	
第10回	11月11日(金) 10年後を見据えたGEOC像	GEOC職員および環境パートナーシップオフィス等運営委員によるワークショップ
第11回	11月11日(金) ユースとパートナーシップ	・大崎美佳/EPO北海道 ・原田謙介/NPO法人Youth Create代表理事 ・水柿大地/NPO法人英田上山棚田団
第12回	12月12日(月) 環境人材の育成とパートナーシップ	・川北秀人/IIHOE(人と組織と地球のための国際研究所)代表 ・川嶋直/公益社団法人日本環境教育フォーラム理事長 ・上條直美/特定非営利活動法人開発教育協会(DEAR)代表理事

開催概要(第1回~4回、6回~8回、10回~12回)

場所: GEOC セミナースペース(国連大学1F)

定員: 20名(先着順)

司会: 佐藤真久/東京都市大学大学院環境情報学研究科教授、環境パートナーシップオフィス等運営委員

記録: 平田裕之/一般社団法人環境パートナーシップ会議事務局次長

※第5回、第9回はそれぞれ拡大版、特別版として国連大学エリザベス・ローズ国際会議場にて、定員150名で開催した。